

文部科学省 委託事業

平成27年度「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」  
(略称：GPL 講座)

業 務 成 果 報 告 書

平成28年5月

報告者／事業者：国立大学法人名古屋大学大学院

工学研究科航空宇宙工学専攻

本報告書は、文部科学省の「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」委託費による委託業務として、国立大学法人名古屋大学が実施した平成27年度「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

## 目次

1. 要旨
2. 実施概要
  - 2-1 実施内容
  - 2-2 実施日程
  - 2-3 実施体制
3. 実施結果
  - 3-1 GPL 講座
  - 3-2 GPL 講座評価・要請の調査（受講生・企業等）・分析
  - 3-3 講演会企画
  - 3-4 講座改善計画
  - 3-5 講座開講準備（教材・講師手配・講義会場手配等）
  - 3-6 事業 PR 講演会開催（航空機開発とその課題）
4. 纏め

### 添付資料

- 参考資料 1 アンケート（受講者用および受講者の企業上司用）
- 参考資料 2 アンケート集計結果

## 1. 要旨

航空機産業が終結する中部地域は愛知・岐阜・三重・長野・静岡を国際戦略総合特区「アジアNo.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」に指定され活動が続いている。この特区の雇用者数は平成30年までに25,000人を目標としている。

この地域における喫緊の課題は、これらの雇用者を指揮・指導するグローバルな対応能力や航空機の技術集約部品を取り扱う高度なプログラム管理能力を有する技術リーダーの育成である。この課題解決のため、時節によって刻々変化する企業要請に即した課題を反映可能な高度な大学院教育プログラム構築が求められている。

この事業は、本校で実施されてきた「航空機開発プロジェクトリーダー養成講座」が適切な課題提供と企業の要請にあった教育が提供されたかを調査・評価し、刻々と変化する航空機開発の課題に沿った講座となるように企画し、平成27年度以降のGPL養成講座に成果を反映させる目的で提案された。本成果報告書は平成27年4月から平成28年3月までの活動と成果をまとめたものである。

## 2. 実施概要

### 2-1 実施内容

今期の活動は下に示す5項目である。

- (1) 開講式準備・開講式  
(同時開催講演準備)
- (2) 講座準備・講座  
(教材準備・印刷・講師事前打合わせ・講座等)
- (3) 修了式準備・修了式
- (4) GPL 講座評価・要請の調査（受講生・企業等）・分析
- (5) 講演会企画
- (6) 講座改善計画
- (7) 講座開講準備（教材・講師手配・講義会場手配等）
- (8) 事業 PR 講演会開催（航空機開発とその課題）

## 2-2 実施日程

今期の活動は下に示す計画に沿って概ね予定通り実施した。

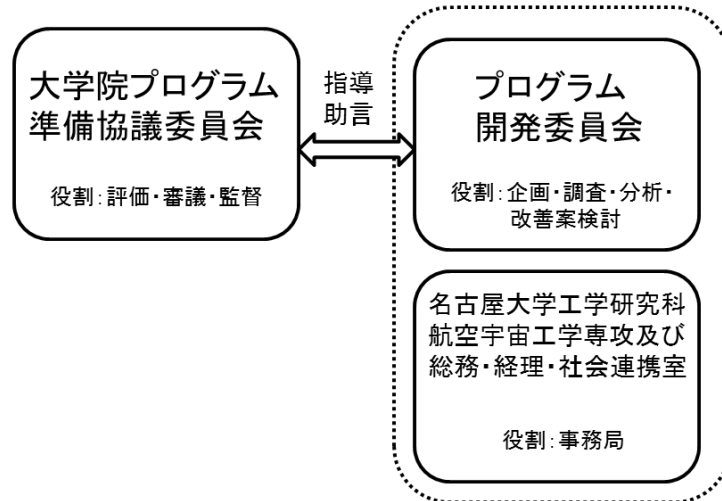
調査の対象となった平成 27 年度の GPL 講座は平成 27 年 5 月から 9 月の間に開催したもの。受講者数は 33 名。

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開講式準備・開講式 (同時開催講演準備)	開講式案内・講演者調整等											
	開講式(5月16日)											
講座準備 (教材準備・印刷・講師事前打合わせ等)	講座準備											
講座	講座実施(全15回75時間)											
修了式準備・修了式	修了式案内等準備											
	修了式(9月12日)											
GPL講座評価・養成 の調査(受講生・企業 等)・分析	アンケート調査・分析											
講演会企画	講演者と演題の設定・調整											
講座改善計画	講座改善事項整理											
講座開講準備(教材・ 講師手配・講義会場 手配等)	カリキュラム・教材・講義会場準備											
事業PR講演会開催 (航空機開発とその 課題)	基調講演会実施(3月12日)											

## 2-3 実施体制

これまで本学で実施してきた航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成(GPL)講座での実施体制を基本として、本事業の業務運営管理、取り扱い業務に当たることとした。以下に体制図を示す。

### GPL講座実施体制



大学院プログラム準備協議委員会は、航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム協議委員会の略称略称で下記に構成メンバーとその役割を記す。

#### 構成員

連携機関（企業・団体・機関等）の名称	構成員の所属・職名	役割	氏名
(1) 名古屋大学	名古屋大学大学院工学研究科長	プログラム責任者	松下 裕秀
(2) 名古屋大学	名古屋大学大学院工学副研究科長	プログラムコーディネーター	佐宗 章弘
(3) 名古屋大学	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻特任准教授	プログラムマネージメント、学内外調整	林 賢吾
(4) 川崎重工業株式会社	航空宇宙カンパニー技術企画管理部・技術情報課長	カリキュラムの内容に対する専門的な意見、受講生の派遣、講師の派遣	辻 浩敏
(5) 三菱重工業株式会社	名古屋航空宇宙システム製作所名古屋総務統括部・人事課人材開発チーム主任	カリキュラムの内容に対する専門的な意見、受講生の派遣、講師の派遣	佐藤 誠
(6) 三菱航空機株式会社	コーポレート本部 総務部・人事グループ主任	カリキュラムの内容に対する専門的な意見、受講生の派遣、講師の派遣	市川 孝敏

#### 役割

大学院プログラム準備協議委員会は、後述の「プログラム開発委員会」が実施する以下の項目について助言、指導および監督を行う。

- (1) 平成 27 年度に実施する「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成講座（GPL 講座）」「GPL 展開講座」の調査および分析結果を評価し、助言および指導を与えるとともに妥当性を審議する。
- (2) プログラム開発委員会の提案する改善策を評価し、助言および指導を与えるとともに審議する。
- (3) プログラム委員会による「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」実施の際には、適切な講師を選定し派遣するとともに、受講生を募集し派遣する。

- (4) 実施会場および設備を提供するとともに、修了要件の設定および修了証の発行を行う。  
プログラム開発委員会の構成員およびその役割を以下に記す。

#### 構成員

氏名	所属・職名 役割等
吉川 典彦	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・教授 委員長
笠原 次郎	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・専攻長 副委員長
林 賢吾	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・特任准教授 カリキュラム企画、 教材開発、学内外調整、授業担当
末福 久義	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・特任助教 カリキュラム企画、授業担当
酒井 武治	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・准教授 カリキュラム企画、学内調整、 授業担当
三橋 光紀	(株)ECC 法人渉外部門 法人事業課 営業 ビジネス英会話分野のカリキュラムの企画

#### 役割

プログラム開発委員会は、以下の項目を実施する。

- (1) プログラム開発委員会は平成 27 年度に実施される「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成講座 (GPL 講座)」「GPL 発展講座」の教材および受講生へのアンケート、および受講生派遣企業へのヒアリングにより、その受講満足度および目標達成度を調査し、改善の可能性を分析する。
- (2) 調査結果について協議の場の評価を受け、改善を推奨された項目について具体的な改善案を検討する。
- (3) 改善案に基づき新たなカリキュラムを企画し、協議の場より承認を得る。
- (4) 承認を得たカリキュラムに基づいて、「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」を構築する。
- (5) プログラムの実施スケジュールおよび実施場所などの準備・広報に努める。
- (6) 平成 28 年度に継続して「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」を実施し、目標達成度を評価し検証する。

### 3. 実施結果

#### 3-1 GPL 講座

##### ① カリキュラム

下記カリキュラムによる講座を実施した。毎週土曜日に5時間、全15回75時間の構成。

#### 講義計画 - カリキュラム 全15回

講義時間：毎回 10:00~12:00/13:00~16:00

講義No.	日付	会場	10:00		10:15		12:00		13:00		15:00		16:00	
			■オリエンテーション		■国内航空機産業の 現状課題と将来動向		昼食		■Intorduction to Book & Cross Culture Communication					
第1回	5月16日	ESホール ES会議室	■オリエンテーション		■国内航空機産業の 現状課題と将来動向		昼食		■Intorduction to Book & Cross Culture Communication					
第2回	5月23日	ES総合館 034講義室	■航空機開発の特質 —ビジネス規模と航空機の特徴				昼食		■Presentation Skills & Exploring Culture					
第3回	5月30日	ES総合館 034講義室	■航空機の認証に関するRegulationsとガイドライン —Regulation、航空機の認証、Certification Process				昼食		■KAS 1: Physical vs Digital Mockups					
第4回	6月6日	ES会議室	■品質管理と特殊工程				昼食		■Business MGMT Skills & Exploring Culture					
第5回	6月13日	ES会議室	■商品企画と開発の流れ				昼食		■KAS 2: Wing Skin					
第6回	6月20日	ES会議室	■航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネージメント				昼食		■Meeting Skills & Exploring Culture					
第7回	6月27日	ES会議室	■航空機開発手法 —IT活用の実態、Digital Product Lifecycle Management				昼食		■KAS 3: Aluminum vs Composite Materials					
第8回	7月4日	ES総合館 034講義室	■開発手法の傾向 —Lifecycle Product Development				昼食		■Negotiation Skills & Exploring Culture					
第9回	7月11日	ES総合館 034講義室	■プロジェクト・マネージメント —プロジェクト・マネージメントとツール				昼食		■KAS 4: Spoilers					
第10回	7月25日	ES総合館 034講義室	■開発の管理 —TRL's、WBS、開発戦略構想例				昼食		■Review & KAS Set Up					
第11回	8月1日	ES会議室	■SEとRequirement Based Engineering —SEとRBE、質疑応答（全般）				昼食		■KAS Practice in Groups					
第12回	8月22日	ES会議室	■KAS Practice in Groups				昼食		■KAS Practice in Groups					
第13回	8月29日	ES会議室 ESホール	■KAS Practice in Groups				昼食		■KAS Practice in Groups					
第14回	9月5日	ES総合館 034講義室	■KAS Practice in Groups				昼食		■KAS Practice in Groups					
第15回	9月12日	ESホール ES会議室	■KAS Practice in Groups				昼食		■Live Demonstration for Graduation		修了式			



## ② 受講生

定員 25 名（社会人 20 名、院生 5 名）に対し社会人 32 名、院生 2 名の合計 34 名の受講申し込みがあった。 社会の航空機産業関連企業の必要性と喫緊の要請に対応するため全員を受け入れた。 途中 1 名の女子受講生が個人都合のため棄権。

## ③ 講座

上記①項のカリキュラムにより実施。 担当講師陣は航空機関連企業の第一線で活躍中の管理者層の方々が担当した。

### ■航空機開発技術：

(株)日本政策投資銀行 企業金融第 1 部技術事業課支援センター

三菱重工業(株) 交通・輸送ドメイン民間機事業部 787 技術部

交通・輸送ドメイン民間機事業部 787 技術部階計画管理課

交通・輸送ドメイン MRJ 事業部 工作部 生産計画課

技術統括本部ものづくり革新推進部

三菱航空機(株) 品質保証本部 品質企画部

技術本部 開発保証部

航空機安全統括室

名古屋大学大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻

センター長 島 裕

部長 田中 博幸

課長 井野 晋也

課長 岸川 稔

主席部員 和久 浩行

グループ長 高植 実

主幹技師 森本 淳

副室長 戸上 健治

特任准教授 林 賢吾

### ■International Cross-Culture Communication：

Native 講師

Adam Christopher Serag<sup>1</sup>

Native 講師

Hanon Junn<sup>1</sup>

Bi-lingual 講師

山田 美絵<sup>1</sup>

\*注 1: (株)ECC

講座のの様子を以下に示す。

開講式の様子



講座の様子



演習の様子



成果報告会の様子



### 3-2 GPL 講座評価・要請の調査（受講生・企業等）・分析

#### ④ アンケート調査・分析

企業のニーズにあった講座内容としていくために、平成 27 年度上期に実施した GPL 講座に参加した受講生、及びに受講生の属する企業の上司にアンケートを実施した。その結果、受講生 33 名中 30 名、上司 21 名中 10 名から回答を入手した。

#### ⑤ アンケート内容と結果

アンケート内容と集計結果はそれぞれ本報告書に添付する参考資料 1 及び 2 を参照方。ここでは要点のみを記す。

【受講生】下記内容について調査（要点のみ記載）

#### 1. 全般情報について

##### ア. 所属区分

機体/エンジン/装備品メーカー（40%）、エンジニアリング会社（47%）、  
航空機産業参入企画中のメーカー（3%）、ソフトウェアテスト（3%）、  
学院生（7%）

##### イ. 勤務先所在地

愛知県（67%）、岐阜県（17%）、三重県（3%）、その他（13%）

##### ウ. 会社規模（従業員数）

100～500人（11%）、500～1000人（36%）、  
1000人以上（53%）

##### エ. 受講生の職種（複数回答あり）

営業（7%）、研究開発設計（50%）、製造（3%）、品質管理（7%）、  
サービス（17%）、その他（13%）

##### オ. 受講生の勤続経験

若手社員（34%）、中堅社員（43%）、ベテラン社員（13%）、  
その他（10%）

##### カ. 受講生英語レベル（TOEIC 換算）

861 点以上（7%）、731～860 点（7%）、601～730 点（43%）、  
471～600 点（30%）、346～470 点（6%）、261～345 点（7%）

#### 2. GPL 講座に関する会社支援について

##### ア. 授業料 25 万円/人について

高い（18%）、適切（68%）、安い（14%）

##### イ. 所属会社からの支援について

全額会社負担（89%）、半額会社負担（4%）全額自己負担（3%）、  
その他（4%）

#### 3. 講座内容および今後の活用に関する質問

##### ア. 講座において得られた知識・経験

大多数が新たな知識や経験を多く習得することが出来たとの回答

##### イ. 講座手法

大多数が良いあるいは非常に良いとの回答

- ウ. 全 15 回カリキュラム・テキスト類・講師について  
大多数が良いあるいは非常に良いとの回答
- エ. カリキュラムの内容・量について  
大多数が適切との回答
- オ. 期間 75 時間/15 回について  
過半数以上が丁度良かったとの回答
- カ. 開催日  
全員が土曜日開催を希望

【企業の上司】下記内容について調査（要点のみ記載）

1. GPL 講座に関する企業の取組み
  - ア. 位置付け  
重要な教育プログラムと捉え積極的に奨励
  - イ. 授業料 25 万円/人について  
過半数が適切との回答
  - ウ. 授業料・受講時間に関する支援  
100%が会社支援との回答
  - エ. 開講期間（75 時間／全 15 回）について  
全員が丁度良いとの回答
  - オ. 講座開催曜日について  
90%が土曜日開催を奨励
2. 目標の達成度・受講評価  
受講生が自発的に提案・決断を行うようになったと多数の回答があった。
3. 成果発表を聴取されたご感想  
受講生のプレゼンテーション能力が向上して充実していたという評価が多かった。
4. 次年度講座に対するご要望  
継続して実施してほしいという意見が多かった。

### 3-3 講演会企画

GPL 講座で取上げる課題を提供して頂くべく業界で著名な方々に基調講演を依頼した。また、この基調講演に関し GPL 講座受講申込締め切り前に受講候補者や企業上司等に案内を発出し GPL 講座の説明(以下の 3-5 の事業 PR 講演会)と共に基調講演会を開催し参加者への情報発信を行う企画を立てた。

講演者と課題は下記のとおり。

- ① 島 裕  
＜株式会社日本政策投資銀行企業金融第 1 部 技術事業化支援センター長＞  
「航空機製造産業の現況と解くべき課題」
- ② 奥田 章順  
＜株式会社三菱総合研究所 企業経営部門統括室 事業推進グループ 兼 経営コンサルティング本部 参与 チーフコンサルタント＞

「2030年に向けての変化する航空機産業（先進技術・デジタル化、ビジネスモデル、人材）」

③ 野崎 省二・工藤 啓治

＜ダッソー・システムズ株式会社＞

「3D エクスペリエンスによるビジネス改革—航空機における複雑性設計への取り組みと事例」

④ 竹川 光弘

＜株式会社 IHI 航空宇宙事業本部 技術開発センター 材料技術部 部長＞

「航空エンジン開発と材料技術」

⑤ Jean-Pierre Stainnack

＜エアバス・ジャパン株式会社 日本担当シニア・バイス・プレジデント＞

「今後 20 年の航空機市場とエアバス社の航空機開発」

⑥ 岸 信夫

＜三菱航空機株式会社 取締役副社長執行役員・三菱重工業株式会社 交通・輸送ドメイン MRJ 事業部長＞

「国産民間旅客機 MRJ の開発と今後」

### 3-4 講座改善計画

GPL 講座が企業の要請にあった主旨のものになっているかどうかを判断するために GPL 講座内容や実施方法に対する改善点を調査すべくアンケート調査及び、企業聞き込みを実施した。集計報告は参考資料 2 を参照方。

以下が改善案の具体例：

- 一分間スピーチ演習を効率的に実施する
- GPL 講座として力点を置くテーマは一方方向でなく演習ベースにしたり予習を課す
- 構造関連が主体だが装備関係の講義を盛り込む
- 製造中心の講師が多かったがエアライン、営業、サプライチェーンの観点の講義を考慮する
- 一分間スピーチは一人の演習だが 2 人で会話する演習も考慮

上記改善案は H28 年度の GPL 講座での盛り込みや改善を検討していく。

### 3-5 講座開講準備（教材・講師手配・講義会場手配等）

上記のアンケート結果や改善案を盛り込むべく、平成 28 年度 GPL 講座開講に向けた準備作業として以下を実施した。

#### ① 教材の準備

航空機開発教材のうち、航空機関連講演資料集が量的に多く集積していたので同じ講演者の講演資料を一部にする等でページ数を削減し扱いやすくした。

#### ② 講師派遣要請及び調整

航空機開発関係の教師 10 名（含む開講日の講演者 1 名）と調整し、カリキュラムに従った課題での講義を依頼した。

ビジネス英会話の講師はネイティブ 2 名とバイリンガル 1 名を調整の受け決定。

#### ③ 講義会場手配

平成 28 年度 GPL 講座用に講義室を設定、チーム分けで演習のしやすい講義部屋を設定した。開講式及び修了式にはホールを予約し、受講者及びその上司が出席できるよう設定した。

3-6 事業 PR 講演会開催（航空機開発とその課題）

3-2 で企画した基調講演会と GPL 講座紹介を 3 月 12 日(土) に実施した。多数の事前申込みがあり、150 名以上の聴講があった。アジェンダを下に示す。

GPL 講座の紹介と基調講演のアジェンダ

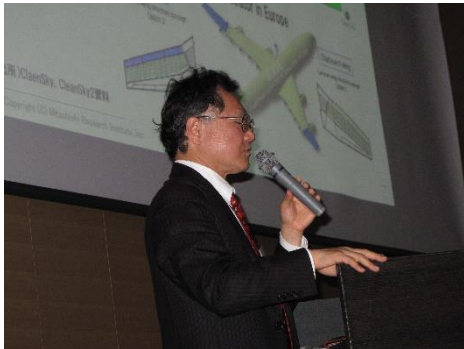
第一部	
13:00-13:40	<p>島 裕                      &lt;株式会社日本政策投資銀行企業金融第 1 部 技術事業化支援センター長&gt;                      「航空機製造産業の現況と解くべき課題」</p>
13:45-14:25	<p>奥田 章順                      &lt;株式会社三菱総合研究所 企業経営部門統括室 事業推進グループ 兼 経営コンサルティング本部 参与 チーフコンサルタント&gt;                      「2030年に向けての変化する航空機産業（先進技術・デジタル化、ビジネスモデル、人材）」</p>
14:30-15:10	<p>野崎 省二・工藤 啓治                      &lt;タッソー・システムズ株式会社&gt;                      「3D エクスペリエンスによるビジネス改革—航空機における複雑性設計への取り組みと事例」</p>
第二部	
15:20-16:00	<p>竹川 光弘                      &lt;株式会社 IHI 航空宇宙事業本部 技術開発センター 材料技術部 部長&gt;                      「航空エンジン開発と材料技術」</p>
16:05-16:45	<p>Jean-Pierre Stainnack（ジャン=ピエール・スタイナック）                      &lt;エアバス・ジャパン株式会社 日本担当シニア・バイス・プレジデント&gt;                      「今後20年の航空機市場とエアバス社の航空機開発」</p>
16:50-17:30	<p>岸 信夫                      &lt;三菱航空機株式会社 取締役副社長執行役員・三菱重工業株式会社 交通・輸送ドメインMRJ事業部長&gt;                      「国産民間旅客機 MRJ の開発と今後」</p>

基調講演の講演者及び講演会の様子の写真を以下に示す。

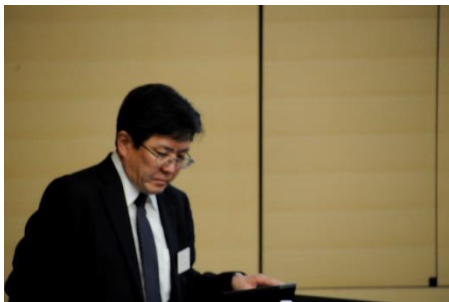
笠原先生による主催者挨拶の様子



三菱総合研究所株式会社  
奥田チーフコンサルタントの講演の様子



IHI 株式会社  
竹川部長の講演の様子



三菱航空機株式会社  
岸福社長の講演の様子



日本政策投資銀行  
島センター長の講演の様子



ダッソー・システムズ株式会社  
野崎氏の講演の様子



エアバス・ジャパン株式会社  
Jean-Pierre Steinnack 副社長の講演の様子



基調講演の様子



#### 4. 纏め

平成 28 年度事業に向けた比較データとしてアンケート調査およびその分析を行った。その結果、平成 27 年度に実施した GPL 講座の基本的な枠組みは企業および受講生から好意的に受けとめられていて引き続き同内容で継続してほしいという希望が多いことがわかった。このため、平成 28 年度に実施する GPL 講座の格子は、3-3 項の改善を考慮して基本的には平成 27 年度に実施した GPL 講座のやり方を維持することとした。但し 3-3 項に掲げられる講座の実施要領に対する改善点を盛り込むこととした。平成 28 年度に実施する GPL 講座においても今年度と同様なアンケートを実施し講座が企業に要求に即したものとしていく。

企画した基調講演会は多くの参加者(150 名以上)に聞いていただき、平成 28 年度事業における GPL 講座開催趣旨を周知するにあたり有効であった。

以上

**参考資料1 アンケート（受講者用および受講者の企業上司用）**



# GPL養成講座アンケート — 受講生

(国)名古屋大学大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 GPL事務局

## アンケート回答のお願い

今年度のGPL講座を受講後、会社業務に直接・間接的に成果を発揮していただけているか、グローバルリーダーへ踏みだすに相応しい積極的な取組みができるような下地が整ったか受講生の視点で本講座の有効性を評価してください。  
忌憚のないご意見・回答をお願いします。

社名

受講生番号

受講者氏名

日付

## 1. 全般情報について確認させていただきます。

### (1) 所属区分

- 機体、エンジン、装備品会社
- エンジニアリング会社
- 航空機用部品・加工メーカー
- 航空機産業参入企画中のメーカー
- 名古屋大学大学院生
- Other:

### (2) 勤務先所在地(名古屋大学大学院生は回答不要:以下「★」カ所同様)

- 愛知県
- 岐阜県
- 三重県
- Other:

### (3) 従業員数(★)

- 10人未満
- 10～20人
- 20～50人
- 20～50人
- 100～500人
- 500～1000人
- 1000人以上

(4) 受講生の職種(複数回答あり)(★)

- 経営者
- 営業
- 生産技術
- 製造
- 資材
- 品質管理
- サービス/カスタマーサポート
- Other:

(5) 勤続年数について(★)

- 新入社員
- 若手社員
- 中堅社員
- ベテラン社員
- その他

(6) 受講生英語レベル(TOEIC換算)

- 861点以上
- 731～860点
- 601～730点
- 471～600点
- 346～470点
- 261～345点
- 260点以下

(7) ①講座に対する会社側支援について(★) \_\_授業料25万円/人 (授業内容・成果を考慮して)

- 高い
- 適切
- 安い
- その他

その他を選択された場合は適切と思われる授業料を記入して下さい。

(7) ②講座に対する会社側支援について(★)\_\_会社の支援

- 全額支給
- 半額補助
- 全額本人負担
- 本人負担 x %

「本人負担 x %」を選択された場合は本人負担の%を記入して下さい。

(8) 意見記述\_\_ (1)~(7)までの項目に関しコメントがありましたら記述願います。

## 2. 講座内容および今後の活用に関する質問

1) 講座において得られた知識・経験をA,B,Cで評価してください:

- A: 新たな知識や経験を多く習得することができた。
- B: 新たな知識や経験を多少習得することができた。
- C: 新たな知識は何も習得できなかった。

航空機開発・プロジェクト関連

	A	B	C
第1回 航空機関連産業の現状課題と将来動向	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第2回 航空機開発の特質	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第3回 航空機の認証に関するRegulationsとガイドライン	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第4回 品質管理と特殊工程	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第5回 商品企画と開発の流れ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第6回 航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネジメント	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第7回 航空機開発手法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第8回 開発手法の傾向	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第9回 プロジェクト・マ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ネージメント			
第10回 開発計画の管理	●	●	●
第11回 SEと Requirement Based Engineering	●	●	●

### International Communication 関連

	A	B	C
第1回 Cross Culture Communication	●	●	●
第2回 Presentation Skills & Exploring Culture	●	●	●
第3回 KAS1:Physical vs Digital Mockups	●	●	●
第4回 Business MGMT Skills & Exploring Culture	●	●	●
第5回 KAS2:Wing Skin	●	●	●
第6回 Meeting Skills & Exploring Culture	●	●	●
第7回 KAS3:Aluminum vs Composite Materials	●	●	●
第8回 Negotiation Skills & Exploring Culture	●	●	●
第9回 KAS4:Spoilers	●	●	●
第10回 Review & KAS Set Up	●	●	●
第11~14回 KAS Practice in Groups	●	●	●
第15回 KAS Practice in Groups リハーサル	●	●	●
第15回 成果発表	●	●	●

## 2) 講座の狙い・目標の達成度

GPL講座では下記の高い目標を掲げています。

- 国際設計プロジェクトリーダーとして、世界の航空機産業界とのビジネスコーディネーションを遂行できる人材の育成
- ビジネスミーティングを主導し、責任者として英語によるExecutive Summary Reportのできる能力の育成

これを踏まえ、講座を終了された皆さんが、どの様に考えておられるかお尋ねします。

### (1) 講座の有効性について

グローバルプロジェクトリーダーの能力は、全15回講義によって即身に付くわけにはいきませんが、本GPL講座により目標達成に向けた自己研鑽のプロセスについてひらめき・ヒントの様なものを得

ていただき、それを拠り所に今後継続的に努力していただくことが必要と考えます。  
その意味を踏まえて、以下の質問への回答をお願い致します。

講座後半Case Study(演習)を実行する上で、前半講義の内容及びレベルが課題となります。

■ 航空機開発・プロジェクト

■ International Communication

講座テキスト類は上級者用レベルで設定し、講義およびQ&A(Debriefing Sheet)では、噛み砕いて説明する手法を採用しました。

これについての意見ををお願いします。

講座手法

- 非常に良いと思います
- 良いと思います
- どちらともいえません
- 良いと思いません
- 全く良いとは思いません

意見記述\_\_GPL講座を改善する案をお持ちでしたら記入をお願いします。

(2) 全15回カリキュラム・テキスト類・講師について

	10 非常に よい	9	8	7	6 普 通	5	4	3	2	1 良 く ない
カリキュラム全体	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
教材・テキスト	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
講師	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

意見記述\_\_カリキュラム・テキスト類・講師についてコメントがあればご記入願います。

意見記述\_\_本講座の成果活用について自由記述をお願いします。

3) カリキュラムの内容・量について:

- A: 不足している
- B: 適切である
- C: 過剰である
- D: 不要である

航空機開発・プロジェクト関連

	A	B	C	D
第1回 航空機関連産業の現状課題と将来動向	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第2回 航空機開発の特質	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第3回 航空機の認証に関するRegulationsとガイドライン	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第4回 品質管理と特殊工程	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第5回 商品企画と開発の流れ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第6回 航空機製造技術とサプライチェーン・マネジメント	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第7回 航空機開発手法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第8回 開発手法の傾向	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第9回 プロジェクト・マネジメント	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第10回 開発計画の管理	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第11回 SEとRequirement Based Engineering	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

International Communication 関連

	A	B	C	D
第1回 Cross Culture Communication	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第2回 Presentation				

Skills & Exploring Culture	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第3回 KAS1:Physical vs Digital Mockups	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第4回 Business MGMT Skills & Exploring Culture	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第5回 KAS2:Wing Skin	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第6回 Meeting Skills & Exploring Culture	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第7回 KAS3:Aluminum vs Composite Materials	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第8回 Negitiation Skills & Exploring Culture	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第9回 KAS4:Spoilers	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第10回 Review & KAS Set Up	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第11~14回 KAS Practice in Groups	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第15回 KAS Practice in Groups リハーサル	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
第15回 成果発表	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

#### 4) 開講期間および開催日について

##### (1) 期間： 75時間／15回

- 短かった
- 丁度良かった
- 長かった

##### (2) 開催日について

- 今年度同様 毎週土曜日がよい
- Weekday 金曜日がよい
- Weekday その他

上記で「**Weekday** その他」を選択された場合はご希望の曜日を記入して下さい。

##### (3) 時間数： 午前2時間、午後3時間

- 短かった